

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	隅田由加里	職名	講師	学位	修士 (看護学) (産業医科大学 2017 年)
----	-------	----	----	----	--------------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
看護管理 基礎看護学	看護実践能力、看護経験 1~3 年看護師、人材育成 看護学生、看護教育、協同学習、ジグソー法、診療に 伴い看護技術、コミュニケーション

研 究 課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験 1~3 年の看護師の看護実践能力を向上に影響を与える要因とその関連について検討をすすめる。 ・ ジグソー学習法を活用した協同学習を診療に伴う看護技術演習に導入し、その学習効果の検証を行う。

担 当 授 業 科 目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護マネジメント総論 (後期必修) ・ 看護マネジメント論 (前期選択) ・ 診療関連技術論 (前期必修) ・ 看護技術論 (前期必修) ・ 生活援助技術論演習 (後期必修) ・ ヘルスアセスメント技術演習 (後期必修) ・ 看護過程論 (前期必修) ・ 基礎看護学実習 I (後期必修) ・ 基礎看護学実習 II (前期必修) ・ 看護総合演習 (通年必修) ・ 看護総合実習 (通年必修) <p>* 全て看護学科科目</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名 【 看護マネジメント総論 】</p> <p>2 年後期必修科目。本科目は経営・経済的なハード的要素と、人間関係構築のようなソフト的要素を含む組織管理の授業のため、対患者との関係から看護の学習を深めてきた学生にとっては、組織やマネジメントはイメージしにくい。また理解すべきマネジメント用語も多いため、可能な限りわかりやすい言葉を使用し、日常生活の中に存在する身近なマネジメントともリンクさせながら、マネジメントとは何かという導入から開始し、今の医療現場の状況を踏まえながら授業を展開し理解向上に努めた。現在の医療において重要性が高い「医療安全」は国家試験にも複数出題されるため、講義内に「医療安全」の単元を設け、動画等の視聴を活用してヒューマンエラーの理解と医療安全対策の必要性を教授した。授業終了後は、出欠確認を含んだ質問 foam アンケートを毎回実施し、学生の質問には翌週回答、もしくは個別対応を行った。</p>
<p>授業科目名 【 看護マネジメント論 】</p> <p>4 年前期選択科目。対象学生は看護総合演習・実習で「看護管理」を選択した 4 年生が中心のため、看護総合実習に向けた実習計画立案にも役立つよう、実習部門を例にして、2 年次の「看護マネジメント総論」での学びを活用しての看護サービス管理と、それをもとにした看護ケア管理を軸に授業を構成した。授業は講義と演習方式とし、2 チームで同課題をグループ学習し、課題発表を通して意見交換が行えるように配慮した。これによって質の高い医療・看護が全ての患者に提供されるまでのプロセスを思考できるように配慮した。本授業は最後の各論実習期間と合致するため、選択している学生の実習日等を配慮し、履修学生全員が参加</p>

できるよう日程の調整を図った。

授業科目名【 診療関連技術論演習 】

2 年次前期必修科目。1 年次後期必修科目の「生活援助技術論演習」での学びが活用できるよう、演習スケジュールやワークシートなどの媒体等の統一を図った。授業は「呼吸管理技術（酸素吸入、口腔・鼻腔内吸引）」「体温調整の技術（罨法）」「検査の技術（静脈血採血）」「与薬・輸血の技術（点滴作成と管理、筋肉内注射）」「皮膚・創傷管理技術（包帯法）」を教授した。各技術は講義後に演習を行い、講義から演習までの期間は自主学習が行えるよう、Google classroom 内に動画媒体を導入し繰り返し視聴できるようにした。また形態機能学の知識の振り返りを事前・事後学習として推奨し、その学びが活用できるよう配慮した。演習は感染防止に配慮し、学生を 2 つのクラスに区分し密を回避して実施した。入室と退室場所を決め、入室時は健康チェックを行い、入れ替わり時の交差感染リスクに配慮した。課題である実技試験に関しては、学生が実習で遭遇する機会の多い 3 技術を選択し、練習期間を約 1 か月設け、基礎看護学教員で技術習得支援を行った。また試験は技術のみでなく基礎知識の修得として口頭試問も含め実施した。

授業科目名【 看護技術論 】

1 年次前期必修科目。科目責任者と事前調整を図り、「感染予防技術（スタンダードプリコーション）」「安全を守る技術（ボディメカニクスとポジショニング）」「環境調整技術（ベッドメイキングとシーち交換）」の演習では、履修学年である 1 年生が理解できるよう、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントを思考できるよう心がけた。

授業科目名【 生活援助技術論演習 】

1 年次後期必修科目。科目責任者とは、限られた時間の中で教授すべき技術ポイントの事前調整を図り演習に臨んだ。演習では「活動と休息（車椅子操作）」「清潔（足浴、洗髪台での洗髪）」「食事（口腔ケア）」「排泄（オムツ交換と陰部洗浄）」を教授し、可能な限りわかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。

授業科目名【 ヘルスアセスメント技術演習 】

1 年次後期必修科目。他の演習科目同様、感染防止に配慮し、学生を 2 つのクラスに区分し密を回避して実施したため、主に演習時間ではない学生の予習・復習支援を実施し、基礎看護学教員間で役割分担を行い、可能な限り学生の学びが効果的になるよう配慮した。主にバイタルサインの「体温測定」「脈拍測定」「呼吸測定」「血圧測定」に関しては、わかりやすい説明を心掛け、技術をみせながら実践を通して根拠と技術ポイントが思考できるよう心がけた。実技試験の評価時は、公平性を担保できるよう時間を調整し、評価ポイントに準じて実施した。

授業科目名【 看護過程論 】

2 年次前期必修科目。1 グループ 6 名で構成された 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を、可能な限りわかりやすく具体例などを活用しながら教授した。この科目は、その後の基礎看護学実習Ⅱ、3 年次の各領域別実習でも必要となる基礎知識であるため、学生が興味を持ち、看護展開が学習への継続意欲となるよう、肯定的な言語を活用し承認を意識したコミュニケーションを図った。これによって不明点等を相談しやすい雰囲気づくりに努めた。授業終了後は、担当教員間で Meeting を開き、各グループの学習活動の進捗状況やグループ内学生の理解度、グループワークを進めるにあたっての課題の有無など、教員間の情報交換と情報共有を行った。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ 】

1 年次後期必修科目。実習は COVID - 19 の影響で学内実習となったが、既習の知識およびコミュニケーションを通して、看護の対象（模擬患者）を生活者として理解し、生活上のニーズを見出す能力を養う。自身の対象との関わりを通して、看護者としてあるべき姿勢・態度について考え、自己の課題を明確にするという 2 の目的が達成できるよう、早い段階から日程やスケジュール等を基礎看護学教員間で調整し学内実習に臨んだ。具体的には 2 つの事例を作成した。学生は 1 グループ 6 名で配置し、さらにこのグループを 3 名の小グループに分け、模擬患者を全学生が訪問しコミュニケーションを図ることができるように配慮した。極力病院施設と類似した体験ができるよう、基礎看護学教員が看護師役等に分かれ、学習支援が円滑に行えるようにし、生活上のニーズを見出すためのワークシートも改良し教授した。

授業科目名【 基礎看護学実習Ⅱ 】

2 年前期必修科目。COVID - 19 の影響で病院側の受け入れ状況に差異が生じ、当初の予定通り 9 月に病院実習が行えたのは 40 名であった。またこの 40 名の実習も午前実習のみであったため、午後は大学に戻り目的・目標の達成にむけ、情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、提供する看護技術実践過程を支援した。残る 54 名も 2023 年 2 月に病院実習が実現できるよう調整を図ったものの、やはり COVID - 19 の影響で学内実習となった。病院実習と同様の学びを実現するため、科目責任者をはじめ基礎看護学教員間で協議を重ね、学内実習を 2 月 17 日から 3 月 1 日で実施した。具体的には 3 つの事例を作成し、電子カルテ媒体を活用した。学生は 1 グループ 6 名で配置し、さらにこのグループを 3 名の小グループに分け、模擬患者を全学生が訪問しコミュニケーションと看護技術を提供できるよう配慮した。極力病院施設と類似した体験ができるよう、基礎看護学教員が看護師役等に分かれ、学習支援が円滑に行えるようにし、受け持ち患者の生活上のニーズを見出し看護技術提供につなげることができた。

授業科目名【看護総合演習】

4 年次前期・後期必修科目。看護総合実習の受け入れ施設からは終日の実習可能との返事をいただけたため、実習部門である「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」における看護管理実習の目的・目標の立案に向け、週に 1 回ゼミを開催し、上記の部門に関する自主学習の学びを発表し学生間で意見交換を行いながら教員が補填する形式とし、8 月下旬までに実習目的・目標・実習スケジュール・評価指標を構築することができた。また実習終了後は実習での学びを卒業論文としてまとめ、2023 年 2 月には論文集の冊子作成が完了した。

授業科目名【看護総合実習】

4 年前期の 8 月 24 日～9 月 2 日までの期間の計 7 日間、「医療安全管理部」「感染制御部」「入院支援室」「退院支援室」「看護部」「外科病棟」「内科病棟」の部門・部署の臨地実習を行うことができた。実習遂行にあたっては年度初めの 4 月から複数に渡って、教育担当看護副部長と調整を重ね、最終の実習指導者への説明会に関しては、本来は学生が行うが、COVID - 19 の影響もあり教員が代行説明を行うことで補った。実習開始 2 週間前から学生は自主的に行動を制限し、感染防止に努め実習に臨んだ。COVID - 19 の影響で、3 年次の殆どの各論実習が学内実習となっていた学生にとっては、「医療安全管理部」「感染制御部」「退院支援室」の実習を介して、様々な部門の医療や看護の現場を見学することができ、医療者とコミュニケーションを図れたことは貴重な経験となり、就職後のレディネスに役立つ実習となった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護技術学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護管理学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2017 年 4 月～現在に至る
医療の質・安全学会		2022 年 8 月～現在に至る

2022 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学会発表) なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
なし			

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
西南女学院大学 認定看護管理者教育課程 (教育運営委員役割) (フォーストレベル 質管理Ⅰ：看護サービス管理の安全管理授業担当)	教育運営委員	2017年より継続

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)
<ul style="list-style-type: none"> ・宗教委員 2022年4月1日～2023年3月31日 ・学生募集関連担当（ブログ等運営） 2022年4月1日～2023年3月31日 ・3年生アドバイザー 2022年4月1日～2023年3月31日 ・4年生アドバイザー 2022年4月1日～2023年3月31日 ・学力向上プロジェクト担当 2022年4月1日～2023年3月31日 ・認定看護管理者教育課程教育運営委員 2018年4月1日～2023年3月31日